

誰一人取り残さない 安全安心なやさしいまちを目指して

Re Start

まちづくり推進課（内線326）

人権感覚を高め お互いを認め合う 人権尊重のまちづくり

人権のまど

まちづくり推進課（内線326）

Vol.17 薬物に手を出す若者② ～危険な依存症～

前回は若者の薬物使用について掲載しました。なぜ薬物の使用はいけなののでしょうか？

その最大の怖さは薬物依存症にあり、薬物依存はWHO（世界保健機関）により世界共通概念として定義されています。その乱用により生じた脳の慢性的な異常状態は、薬物の使用を止めようと思っても「渴望」を自己コントロールできず、薬物の使用を繰り返してしまいます。

薬物を欲する脳の「渴望」を抑える治療薬は開発されておらず、ひとたび依存状態になってしまうと、脳は元の状態に戻らないと考えられています。つまり「完治」は無いということです。

好奇心や興味本位で「1度だけ」と思い手を出した薬物の使用が、取り返しのつかない事態を招いてしまいます。

今回は依存症になった脳や身体がどのような行動を起こしてしまうのかをお伝えします。

一度止まって、正しく疑う「正疑感」

12月6日にタレントのスマイリーキクチさんを駄知中学校と濃南中学校にお招きし、『インターネットと人権～SNSの誹謗中傷と差別を考える～』と題した講演会を開催しました。

スマイリーキクチさんは長年にわたりインターネット上での誹謗中傷被害にあった当事者として、「情報を鵜呑みにするのではなく、一度止まって、正しく疑う『正疑感』を持ってほしい」と生徒たちに訴えました。聴講した生徒からは「どう思っ言葉が発信したのかではなく、受け手がどう思ったかが重要」「背景から住所を特定されるような投稿をしない」「人を癒せる言葉を使っていきたい」などの感想がありました。

SNSは使い方を間違えると、被害者にも加害者にもなってしまいます。正しい知識を身に付け、適切にSNSとかかわりましょう。

ようこそ手話の世界へ 福祉課（内線217）

これまでに紹介した手話写真の動画を見ることができます。



令和5年6月に行った手話奉仕員養成講座の参加者の声を紹介します。

手話と出会い！手話への想い！

多治見西高等学校3年 杉山 緋南佳

私は、手話の勉強を始めて半年になります。手話を始めたきっかけは、叔母さんの誘いです。

最初はなんとなく始めたのですが、学ぶうちに手話に対するイメージが変わりました。手話は手だけを使うと思っていたのですが、口や目も一緒に動かすことで素直な気持ちが伝えられる、表情も大切な表現方法ということを知りました。

私は手話を始めて日が浅いため、まだまだ不十分なところもありますが、上手に表現できなくても先生は一生懸命理解しようとしてくれます。相手に伝えたいという気持ちで話し、伝わった時は心から嬉しいです。手話は聴覚障害を助けるだけでなく、お互いのことを理解する・分かり合える方法の一つとして会話するためであると気付きました。

かんたん手話講座「今年もよろしくお祈いします」 「今年も」



両手のひらで軽く抑える



左こぶしの親指に右の人さし指を当てる

「よろしくお祈いします」



右こぶしを鼻から前に出す



頭を下げた右手を前に倒す